平成20年12月15日
［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成20年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	272200288
法人名	医療法人慶成会
事業所名	グループホームいわき
所在地 (電話番号)	〒036-1325　青森県弘前市一町田字村元711番地3 (電　話) 0172-82-3331

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822　青森県青森市中央3丁目20-30　県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 10月 12日	評価確定日	平成 20年 12月 15日

【情報提供票より】(平成20年9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・(平成)　16年　1月　15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	14　人	常勤　14人，非常勤　人，常勤換算　9.7人	

(2) 建物概要

建物構造	平屋建て一部2階造り
	2 階建ての　階　～　1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	15,000　円		その他の経費 (月額)	10,200～冬期11,100 円
敷　金	有 (　円)		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (　円) (無)		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　950 円			

(4) 利用者の概要 (9月15日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	1	名	要介護2	8	名
要介護3	4	名	要介護4	4	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	82.2 歳	最低	70 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	須郷産婦人科、柴田歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体となる医療法人慶成会の病院とも連携しつつ、近隣からも声がけがあるなど、町ぐるみでアットホームなケアを提供しており、文字通り「地域密着型」のあずましいケアを実践している。また、スーパーマーケットなどの各種商業施設にも近いという立地の利便性を生かし、積極的に外出も行っている。外出の機会を通し、周囲もグループホームいわきの利用者には非常に親しみをもっており、まさに住みやすい快適な生活を過ごせるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目：外部4)

2ユニットあるグループホームで、積極的にカンファレンスや発表会を行うことで、常に最新のケアを取り入れようとしている心構えや、日進月歩でより良いケアを行うための積極的な取り組みが見られる。

今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

前回の外部評価では特に改善点はなかったが、それに決して満足せず、自らでもより良いケアを行おうとする積極的な姿勢が見られる。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4，5，6)

町内会とも親密な関係が構築されており、グループホーム内のケアだけでなく、もっと広い視点で「地域ぐるみの福祉」としての討議がなされており、地域密着型の福祉が実践されているのが見て取れる。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部10，11)

地域性なのか、なかなか家族からの意見や苦情が出てくることが無いが、それでも事業所内や運営推進会議などでそうした苦情や不安が出た場合の対応構築はなされている。

重点項目④

日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

近隣のスーパーマーケットに出かけただけで、誰からともなく挨拶されたり、手を貸したりと、町ぐるみで連携がされている。また、旧岩木町のイベントにも積極的に参加したり、近隣の学校の相互交流もしており、そのため近隣の学校の生徒からも利用者や職員に挨拶をしたりなど、地域にとても解け込んでいる事業所である。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員は地域密着型サービスを理解されておりみんなで話し合い、グループホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時、会議等の中で理念について確認され共有化が図られ、また各共有の場にもみんなが確認出来る様に理念が掲示されている。		
2．地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に参加されており、会合や行事にも積極的に参加し、地域の方との交流が図られている。グループホームにも近隣の方が立ち寄ったり、グループホームの行事への参加もされ交流を深めている。また管理者はキャラバンメイトの講習を受けており、認知症理解の為の講習会もされている。今後も行っていく予定である。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解されており、全職員で話し合い、自己評価をつくり上げている。また評価後は職員みんなで結果を受け入れ、改善できる事は即改善されている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議が行われている。参加者に市の担当者、民生委員、町内の方、家族の方等が参加されている。その中でも外部評価の結果等も報告し、改善に向けての助言も得ている。また会議後はファイリングされた資料をみんなで確認している。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の担当者に近況を報告しており、疑問点や問題点について助言や指導も得られている。外部評価の結果も報告している。いつでも話せる関係にある。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護に関しての研修に参加し、職員にも勉強会等で話され、管理者・職員ともに理解を深めている。地域包括支援センターとの連帯を図りながら、成年後見制度の利用を支援している。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、勉強会も行い、職員全員で理解している。またマニュアルも作成されており、いつでも確認出来る様になっている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はグループホームの理念やケアについての方針、重要事項等を納得いただけるよう詳しく説明し、理解、納得を得ている。また疑問点等があった場合にも随時対応している。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時は入居者のホーム内での様子等を伝え、金銭管理についても小遣い帳に記帳し、きちんと報告している。また、広報誌を家族に送付しているほか、病院受診後の報告もしている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置しているほか、管理者、職員は面会時に家族の方が話しやすいような雰囲気をつくっている。また苦情等があった場合は職員で話し合い改善されている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は認知症の特性を理解しており、職員の異動を行わないよう配慮されている。またやむを得ず異動等がある時は入居者の方にも説明し、十分な引継ぎがなされ、入居者のダメージを防ぐ配慮がなされている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が年1回は外部の研修に参加できる体制になっている。また参加後は勉強会を開催し、職員同士で勉強し、仕事に生かしている。受講後の報告書もまとめられている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交換実習を行っており、その中で職員同士の情報交換が行われ、その情報を仕事にいかしている。外部での研修参加時にも積極的に他事業所の職員との交流が図られている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者、職員は入居者、家族の希望や思い等の把握に努めている。また入居前に見学してもらい、ホームの雰囲気に馴染めるような工夫がされている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の方の意向、趣味、得意分野を把握して、日々の生活を一緒に行動し、お互いに支えあう関係をつくられている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人の情報から入居者の希望や意向の把握に努め、畑いじりが好きな方は農作業をしたり、縫い物が好きな方は縫い物をしたりと、なるべく自宅にいた時に近い生活を行えるようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	計画作成時には担当職員を中心に本人や家族の意見を取り入れ計画を立てている。作成後には本人、家族に説明し、了解も得られている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、三ヶ月毎に見直しをしているが、入居者の状態変化時にはその都度見直しが行われている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、家族の要望に応じて病院送迎等の外出支援が行われている。また家族の希望により家族の宿泊も可能になっている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から利用されていたかかりつけ医を受診することができる。また協力医療機関との連帯も図られていつでも相談できる。受診後は家族に報告されている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居説明時に本人、家族に説明確認している。かかりつけ医との情報交換を密にし、スタッフ間でカンファレンスやミーティングをたびたび行うことで情報や方針の共有を行っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** (1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議等で入居者のプライバシーや尊厳について話し合い、個人情報の保護についても理解を深めている。書類の保管場所への配慮もされている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに合わせた支援を行うように配慮している。その日の希望に合わせ散歩や買い物等がされている。業務優先にならないように職員で話し合いもされている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々の力量に応じ食事作り、後片付け等を行ってもらっている。職員も一緒に食事しており、会話を楽しみながら食事がされていた。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回となっているが入居者の希望時等にも合わせ行われている。また入浴されない方には足浴等もされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の個々の生活歴を把握しており、食事準備等の役割りを持ってもらい自発的な活動となるような支援がされている。また通院時に買い物や外食する等の楽しみごとも行われている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季中はなかなか外出の機会はないが、それ以外は日頃の散歩や買い物、またドライブを行い、入居者に楽しんでもらい、閉じこもらないよう支援している。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は勉強会でも身体拘束について学んでおり、管理者も身体拘束は禁止であることを周知徹底されている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解されている。入居者が玄関等に行った際はさりげなく見守りもされている。無断外出された場を想定し、近隣からの協力が得られる体制ができている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、定期的に訓練を行っている。日中、夜間想定での避難訓練がされている。訓練時には町内の方、警察、消防の方にも協力いただいている。緊急時の備品も用意されている。	○	いろんな方の協力をいただいてるので今後は火災訓練だけでなく地震災害時等の想定での訓練にも期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がおり、栄養バランスやカロリーに配慮された献立を作成している。職員は一人ひとりの食事量や水分摂取量を把握しており、普段より摂取されない場合は記入し、申し送りを行っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルがあり、それについても勉強会が行われている。また家族や入居者にも感染流行時にはうがい、手洗い等の徹底を呼びかけている。入居者、職員は全員インフルエンザ予防接種をしている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1) 居心地のよい環境づくり**					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はテレビの音等にも配慮されており入居者が居心地の良い空間となっていた。施設内は換気もよくされており嫌な臭いも感じられず、また光にも配慮され暗い廊下などには日中でも明かりをつけ明るくされていた。入居者の方と作った作品や写真も飾られて生活感や季節感を採り入れみんなが居心地よく過ごせる場が作られている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が今まで使い慣れた物が持ち込まれていて、本人が安心して居心地よく過ごせる居室作りがされていた。		

※ ▨ は、重点項目。